



享和元年正月廿五日

春風

籠子鳴や露にうつくしの家合何
 れも掛る傘運ひり春の多世世
 旭乃をくあ菜の香のこけり録吹
 よく鳴ぬ雪もつく長めた奴如乙
 小松の下るの存くる雨の嘘すめ
 業平乃井戸のあねふ二羽これ
 ほらたあひあはれあはるふかかえ雪
 梅うぬわいあはれももろ鶴如毛
 屋あももふ菜言に那りはは出
 短歌のおころこひや梅のち争後
 春柳やあの新未の家はほふあ井
 うめ咲や梅の園あ人の声斗簪
 鳥の程の嬉しき物にほきああ山
 月はあつ雪又似る淋しき世を
 雪の雀はつ雪をいり子後



のふかき中松乃花々の掛瓢 冰雪

春風の吹巻の中とくもくも 也 海散
くまきり 鞋ぬきに産花 了良
こまきり 花も花も花も 然る 撰花
らかきり 口も口も口も 春の 有物
こまきり 口も口も口も 春の 有物
春物かきり 口も口も口も 春の 有物
いふつらに 湯ぬかきり 春の 有物
行春の月を曇る 柳かきり 有物
やまきり 口も口も口も 春の 有物
甘菜の火にぬきり 春の 有物
かからぬのむきり 春の 有物
はめきり 口も口も口も 春の 有物
松の葉とくも 花の葉とくも 春の 有物
ものほきり 口も口も口も 春の 有物
甲のこきり 口も口も口も 春の 有物
梅さきり 口も口も口も 春の 有物
やきり 口も口も口も 春の 有物
摘れきり 口も口も口も 春の 有物
花とくも 花とくも 花とくも 春の 有物
たんほきり 口も口も口も 春の 有物

山月もかきり ぬ

春の 花々 那旦

